

弓具の取り扱い

2013/12/16

弓、弦、握り

・弓肥

的中定規で測って15cmにすれば良いと言われている。しかし弓の形は弓それぞれ…。
弓の上関板に平行になるような高さにする。

・中仕掛け

中仕掛けはつがえる部分より上を2cm、下を8cmになるように作る。
この時下の部分の太さが大切で、目安として取り掛けた時にかける溝が埋まる程度の太さに作る。

・弦張りにおける注意点

弦張りでは、左手は握りではなく握りの下を持ち、右手は下関板の辺りを持つ。
また、左手を押すのではなく右手を引いて弦を張る。左手はつかえ棒のようにすれば良い。

・握り

握りの太さは正しい手の内を身に付ける為に不可欠な要素！！自分に合った太さを見つけよう！！

ポイントとして次の事が挙げられる。

①指が長い人は握りの高さを高くする。

②掌が大きい人は握りの幅を大きくする。

③小指が短い人は握りの下側を細くする。

→天紋線を合わせて会の時の手の内を作ってみて、正しい大きさかを確認してみる。

・入木と出木

入木とは弓が左に曲がっている状態。

出木とは弓が右に曲がっている状態。

通常弓は多少入木であるので、関板の部分では弦は中央にあり、握りの部分では弦は弓の右端にくる。

矢

・管理

- ・曲がったかも？と思った時は

2本の矢を使って確かめる。やり方は講義の時に説明する。

- ・重心

矢は通常真ん中よりも少し前に重心があるものである。

真ん中にあるものは前に抜きやすい、後ろにあるものは矢勢が良いが上に抜きやすい、前にあるものは矢どころが集まりやすい、らしい…。

かけ

・管理

乾燥した所に置き、汗のついた時などは日陰の風通しの良いところで乾かす。ただし、日光や火気で直接乾かしたり、乾燥材を多用しすぎるとしなやかさを失ったり固くひび割れたりするので気を付ける。

手首の部分にしわが寄らないようにする。